

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フォレストキッズ千種教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障害に特化した専門的支援 事業所は発達障害に特化し、世界基準の療育プログラムを提供している点が強みです。感覚統合や学習・言葉の支援、社会スキルの習得など、多岐にわたるサポートが可能です。	子ども目線の支援環境づくり 事業所では、子どもが「楽しい」と思える環境を意識的に整えています。例えば、遊びを通じて学べる教材を活用したり、活動のスマールステップ化を取り入れることで、達成感をやすくし、自己肯定感を高める支援を実施しています。	地域支援との連携強化 保育所や学校、地域の療育機関との連携をさらに深めることで、子どもがスムーズに社会参加できる環境を整えることを考えております。
2	個別療育と集団療育の両立 個別療育・小集団療育を組み合わせ、一人ひとりの特性に合わせた支援を提供しています。これにより、個別療育で習得したスキルを集団の中で実践できるよう促進していきます。	保護者への具体的なフィードバック 支援の様子をマジックミラー越しに観察できる仕組みを取り入れ、定期的にフィードバックを行うことで、保護者が家庭でも適切に支援できるよう工夫しています。また、療育の考え方や対応方法を保護者と共有することで、支援の一貫性を確保しています。	ICTの活用 記録のデジタル化やオンラインでの支援提供を進めることで、保護者との連携や療育の質の向上を目指しています。
3	保護者支援の充実 保護者へのフィードバックや面談を行い、家庭でも支援が継続できる体制を整えています。これにより、子どもだけでなく家族全体の支援を強化しています。	視覚的・構造化支援の活用 子どもが分かりやすい環境を提供するために、TEACCHプログラムを活用し、視覚支援やスケジュールの構造化を取り入れています。絵カードやスケジュールボードを用いて活動の見通しを示すことで、子どもが安心して活動に取り組めるよう配慮しています。	職員研修の強化 最新の療育手法や支援技術を学ぶ機会を増やし、より専門的な支援を提供できるようにすることが重要と考えております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ICTの活用が進んでいない 記録管理や支援計画の作成において、ICTを十分に活用できていないため、職員の業務負担が大きくなりがちです。電子化を進めることで、業務効率の向上と情報共有の円滑化が期待されます。	多様な発達課題に対応するための専門性の確保 療育の分野は日々進化しており、新しい支援手法の導入や知識のアップデートが求められています。しかし、全ての職員が最新の専門知識を持ち続けることは難しく、実践的な研修の機会をどのように確保するかが課題となっています。	地域との協力体制の構築 地域の保育所や学校、医療機関との定期的な会議を開催し、支援の方向性を共有することで、子どもの環境を統一することを目指します。
2	地域支援・地域連携の不足 地域の保育所や学校との連携が課題として挙げさせていただきまます。保護者や地域機関との情報共有がスムーズに行えない場合は支援の一貫性が損なわれるので、そうならないよう定期的に実施していきます。	職員の負担と人材育成のバランス 高度な専門性を要する療育のため、職員には幅広いスキルが求められます。しかし、現場では日々の業務に追われ、新たな研修や学習の時間を確保するのが難しい状況です。特に、新人職員への指導体制の強化が課題となっています。	保護者との密なコミュニケーション 療育の成果を保護者に伝えるだけでなく、保護者様の悩みや希望を聞く機会を増やし、共に子どもの成長を支える仕組みを作ることが重要と考えています。
3	職員の業務負担の増加 療育プログラムの充実に伴い、職員の業務負担が増加しないよう気をつけております。多岐にわたる業務を同時にこなす必要があり、十分な余裕を持って子どもと関わる時間が確保できるよう努めていきます。	支援の一貫性の確保 保育所やご家庭との情報共有が十分でないと、療育の方向性が統一されず、子どもにとって混乱を招く可能性があるため、引き続き定期的に面談できるように努めてまいります。	職員のスキルアップ支援 定期的な研修や勉強会を開催し、最新の療育方法を学ぶ機会を提供していき、職員のスキル向上を図っていきます。